■ニコライ　　日本正教会の創建者。ロシア正教の伝道に努め，ニコライ堂を遺し，日露戦争中もとどまり，日本で永眠した。
にこらい
・・・・・・1836＝　　ロシア帝国スモレンスク県ベリスク郡ベリョーザで，輔祭ドミートリイ・カサートキンの子に生まれる。本名はイヴァーン・ドミートリエヴィチ・カサートキン。
大塩平八郎乱1837＝ 1歳：

天保改革始・1841＝ 5歳：母が死去。

ベリスク神学校初等科を卒業後，
阿部正弘首座1845＝ 9歳：スモレンスク神学校を経て，

ペリー来航・1853＝17歳：
開国開港・・1854＝18歳：
蕃書調所・・1857＝21歳：サンクトペテルブルク神学大学に年入学。_ヴァーシリー・ゴローニンの「日本幽囚記」を読んで，日本への渡航と伝道に駆り立てられ，在日本ロシア領事館附属礼拝堂司祭募集に志願して，
安政の大獄・1859＝23歳：プロテスタントのアメリカ・オランダ改革派教会のブラインとフルベッキが来日したのに続くように，
桜田門外変・1860＝24歳：卒業すると_修士誓願し修道士ニコライとなる。修道輔祭に叙聖(按手)され，続いて修道司祭に叙聖された。ミラ・リキヤの奇蹟者聖ニコライは東方教会において重視される聖人で，好んで聖名(洗礼名)・修道名に用いられるが，ニコライも奇蹟者聖ニコライを守護聖人として"ニコライ"との修道名をつけらた。
遣欧使節・・1861＝25歳：*箱館のロシア領事館附属礼拝堂司祭として着任。
元大館藩軍医木村謙斉から日本史，東洋の宗教，美術などを7年間，また，仏教についても学僧に学んで，
8月18日政変 1863＝27歳：
薩摩藩士密航1865＝29歳：カトリックが進出し，長崎の"隠れキリシタン"が名乗り出た際，大量の信徒が捕縛されたように，キリスト教への迫害が続くなか，ロシアで宣教会{異教徒の間に正教の布教を促進するモスクワ協会}が設立され，
明治維新・・1868＝32歳：木村の後任新島襄から日本語を教わる一方，新島に英語と世界情勢を教え，懐徳堂の中井木菟麻呂らの協力を得て，祈祷書および聖書(新約全巻・旧約の一部)の翻訳・伝道を行い，坂本龍馬の従弟で江戸で悶着を起こして脱藩し，入り婿として_箱館大神宮の神主になっていた沢辺琢磨が詰問に訪れたのを逆に諭し，自らの部屋で密かに授洗，その際，函館の医師酒井篤礼，南部藩出身浦野大蔵にも洗礼機密を授けた。
戊辰戦争終・1869＝33歳：_日本ロシア正教伝道会社の設立の許可を得るためにロシアに一時帰国し，ペテルブルクで聖務会院にあって首席であったサンクトペテルブルク府主教イシドルから，日本ロシア正教伝道会社の許可を得，
初の日刊新聞1870＝34歳：_掌院に昇叙されて，日本ロシア正教伝道会社の首長に任じられた。自らの留守中の，日本での沢辺の働きは目覚ましく，旧幕府軍の勇士で後に正教会の元勲になる多くの信者を獲得，
廃藩置県・・1871＝35歳：_宣教団団長となって函館に帰って来ると，函館の管轄は沢辺に任せ，仙台地方の伝道を強化すべく，小野荘五郎ほか2人を派遣し，旧仙台藩の真山温治と露和辞典を編集。
学問のすすめ1872＝36歳：仙台と函館で正教徒が捕縛されるなか，正教会の日本伝道の補佐として，ロシアから修道司祭アナトリイ・チハイが函館に派遣され，東京にロシア公使館が開設されたのを契機に，*上京し，築地の居留地に入るとともに，外務省の許可を得て，増上寺の高僧について仏教研究を行う。築地には，ロシア語を学ぼうとする書生が多数集まってすぐに手狭になったため，駿河台の戸田伯爵邸を日本人名義で購入して，ロシア公使館付属地という条件を付け，伝道を行い，影田隆郎ら数十名に極秘に洗礼機密を授けた。
明治6年政変 1873＝37歳：なおロシア語学習の書生が集まり続けて，布教活動には足手まといになったが，官立の学校でロシア語が学べるようになって，ようやく解放される。
佐賀の乱・・1874＝38歳：2年前に弾圧された仙台の信徒たちが，農民知識層を巻き込んで，互助組織{互援社}をつくったように，信徒が次々と増えるなか，，東京市内各地に伝教者を配置し，講義所を設け，東海地方，さらに京阪地方でも伝道を始める。_東京に正教の伝教者を集めて，日本初の公会議を開催し，全20条の詳細な「伝道規則」を制定，日本ハリストス正教会が誕生，沢辺琢磨が初穂(最初の信者)になり，
初の民間工場1875＝39歳：公会の時，日本人司祭選立が提議され，東部シベリアの主教パウェルを招聘して，函館で神品会議を行い，日本人聖職者集団が形成され，設立された正教の神学校の責任も担った。_初の日本人司祭に叙任された。
三つの反乱・1876＝40歳：修善寺町地域から岩沢丙吉，沼津市地域から児玉菊，山崎兼三郎ら男女14名に洗礼を授ける。
大久保暗殺・1878＝42歳：自ら経営する語学学校に，来日した修道司祭ソコロフスキーが教授に就任，以後7年，片腕になる。
琉球処分・・1879＝43歳：二度目の帰国をし，
・・・・・・1880＝44歳：日本国内で，新たに司祭を生む"按手"を行える_主教に叙聖されると，{正教新報}を創刊し，{愛々社}という編集局を設けるが，確立を図ろうとする神学校は相変わらずロシア語学校になってしまう。さらに，教会に必須になるイコンの日本人画家を育成するために，山下りんという女性をペテルブルグ女子修道院に学ばせ，3年後に帰国した山下は，生涯聖像画家として活躍することになる。
明治14年政変1881＝45歳：信徒会・数とも全国の半分近くを占める東北地方を巡回，
新体詩抄・・1882＝46歳：神学校の第一期生が卒業すると，ロシアのペテルブルグ神学大学やキエフ神学大学に留学生を派遣。
秩父事件・・1884＝48歳：反対意見があって中断していた，神田駿河台の_ロシア人建築家シュチュールポフが設計し，コンドルが監督する東京復活大聖堂の建築工事に着手，
帝国憲法発布1889＝53歳：天皇を神とする帝国憲法の発布はキリスト教の拡大に強力な歯止めとなり，
帝国議会始・1890＝54歳：
足尾鉱毒始・1891＝55歳：内村鑑三の"不敬事件に至るが，正教会のみ世論に与して内村批判する一方，日本歴訪中のロシア皇太子が巡査に切られ負傷する大津事件が起こたように，日露関係の悪化が進んで行くなか，"*第一級の西洋建築として竣工し，ニコライ堂の通称で親しまれてゆく。
郡司千島探検1893＝57歳：女流文学誌{うらにしき(裏錦)}を出版，以後14年存続し明治女流文学者の育成に貢献する。
日清戦争始・1894＝58歳：
Bushidou・・1899＝63歳：
日露戦争始・1904＝68歳：_日露戦争が開戦する前に，ロシア政府より帰国を勧められるも拒否，聖職者と信徒によって臨時集会を開き，そこで日本に留まることを宣言し，日本人正教徒に，日本人の務めとして，日本の勝利を祈るように勧め，開戦直後には，内務大臣，文部大臣が，正教徒とロシア人の身辺の安全を守るように指示，強力な警備陣を宣教団と敷地内に配置したので，正教宣教団と大聖堂は被害を受けることがなかった。
日露戦争終・1905＝69歳：捕虜になったロシア兵の生活のためにきめ細かく対応，ロシア皇帝により大主教に挙げられ，功績あった神父らは胸掛け十字を贈られ，のちに帰国した兵士らから募金された基金が献納された。それまでもなく，日本の正教会は経済的に全く自立できず，年間予算の9割以上がロシアからの送金で賄われており，
ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908＝72歳：
韓国併合・・1910＝74歳：多年の心労から，心臓発作に倒れ，
大逆事件判決1911＝75歳：渡来五十周年を記念して盛大な式典が開かれたのを花道に，
明治天皇没・1912＝76歳：_神田駿河台の正教会本会で没し，盛大な葬儀が行われ，大津事件の折，ロシア皇太子に唯一面会を許され，日露友好を願う日本人の心情を伝えたことに対し，明治天皇からの賜花があった。聖堂の傍らに埋葬されることを望んでいたが，日本の法律により谷中墓地に葬られた。
ニコライ堂は関東大震災で損壊，後継の大主教セルギイと信徒らによって再建された。1970年，谷中墓地改修の際に棺を開けると不朽体が現れ，ロシア正教会はニコライを"日本の亜使徒大主教ニコライ"，日本の守護聖人として列聖した。ニコライの不朽体は谷中墓地のほか，ニコライ堂(大腿部)，函館ハリストス正教会などにあり，信者の崇敬の対象となっている。ハリストスとはキリストのギリシャ語読みで，"ロシア正教会""ロシア正教"は教会の名ではないゆえ，'正教を伝えた'が正しい表現である。

Wikipedia「ニコライ(日本大主教)」，長縄光男「ニコライ堂小史～ロシア正教受容150年をたどる」，